

高血圧症の原因である原発性アルドステロン症は椎体骨折のリスク因子である

Primary aldosteronism as a risk factor for vertebral fracture

研究者紹介

野津 雅和 Masakazu Notsu (学術研究院医学・看護学系・医学部担当・助教)

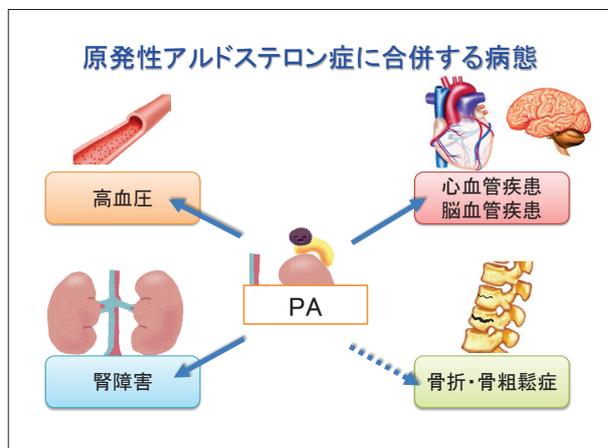
概要

原発性アルドステロン症は、副腎という臓器が過剰にアルドステロンという血圧上昇ホルモンを産生する疾患で、高血圧症の原因となる重要な病気です。特に原因を有さない高血圧症の方と比較して、原発性アルドステロン症では動脈硬化による心筋梗塞や脳梗塞、腎障害の頻度が高く、より若年で発症することが知られています。今回の研究は、原発性アルドステロン症患者さんにおいて椎体骨折のリスクが高まることを初めて明らかにした検討であり、原発性アルドステロン症の新たな合併症の1つとして、骨粗鬆症性骨折を考慮するべきであることを世界に先駆けて示した報告です。

Primary aldosteronism is the most common cause of secondary hypertension. Patients with primary aldosteronism have higher prevalence of cardiovascular, cerebrovascular and renal diseases than that of essential hypertension. We found primary aldosteronism as a risk factor for prevalent vertebral fracture. This suggests that fragility fracture is one of complications of primary aldosteronism.

特色・研究成果・今後の展望

もともと、原発性アルドステロン症患者さんにおいて、尿中のカルシウム排泄量が多く、骨密度が低くなることが報告されていました。しかし、原発性アルドステロン症患者さんにおいて、実際に骨折が増えるか否かについてはこれまで報告がありませんでした。今回の検討で、原発性アルドステロン症患者さんでは、骨強度が弱くなること(骨脆弱性)がきっかけで引き起こされる骨折が健常者の方よりも頻度が高いことが示されました。今回の検討結果をかわきりに、世界中の他の国からも同様の結果を示す報告が出てきています。今回の結果が重要な意味をもつ理由として、原発性アルドステロン症患者さんの頻度が、実はとても高いことが挙げられます。高血圧症患者さんのうち、5~10%の方が、実は原発性アルドステロン症を有しています。現代の世の中は、超高齢化社会と呼ばれ、皆が長生きする時代になってきています。原発性アルドステロン症患者さんにおいて骨粗鬆症性骨折の頻度が高まるということは、高血圧症患者さんのうち骨折しやすい状況にある方が多くいらっしゃる可能性を示唆しています。寿命は延びても、骨折で生活の質が落ちてしまえば、歩けなくなったり、痛みを抱えたまま生活をしなければならないかもしれません。高血圧症も、骨粗鬆症も、いずれも頻度の高い病気であることが、今回の検討結果が目ざされた1つの理由だと考えられます。現在、原発性アルドステロン症患者さんのうち、どのような特徴を有した方が骨折しやすいのかについて検討を進めています。



社会的実装への展望

本研究により、原発性アルドステロン症患者さんの骨折を予防することで、多くの方の健康寿命延伸につながる可能性があります。